

国立大学 医学部

—Part 2—

えびな こうたろう

海老名 洸太郎さん(東京医科歯科大・学習院)

すずき りょうた

鈴木 涼太さん(千葉大・駒場東邦)

きむら えり

木村 恵理さん(山形大・白百合学園)

つちもち ゆり

土持 有理さん(山形大・雙葉)

きりかえ ひなこ

切替 日奈子さん(東北大[AO入試]・渋谷教育学園渋谷)

先生たちは最初の授業ですぐに名前を覚えてくださいます。「質問できることはないかな? 質問に行って個人的に先生と話したい!」と思うくらい、先生を信頼していました。

切替 日奈子さん(東北大[AO入試]・渋谷教育学園渋谷)

目次

- 医学部を志望した理由 P49
- 入塾のきっかけ P50
- 英単語の習得法 P50
- 英語を読む速度について P51
- 医系英語対策は必要か? P52
- 英語力の伸びや楽しさを感じたとき P52
- グノーブルの数学 P54
- グノーブルの物理 P54
- グノーブルの古文 P55
- グノーブルの先生 P55
- グノーブルの魅力 P56
- 医学部の面接について P56
- 医学部を目指す後輩へのメッセージ P57

※●は、この PDF フルバージョンのみの掲載項目

医学部を志望した理由

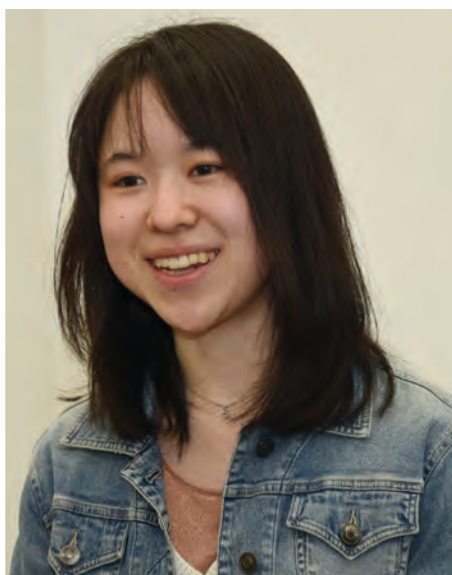
鈴木: 医師である父の存在が医学部志望のきっかけです。父の影響から、自分でもいろいろ医師について調べて、人の役に立てる面や、医学自体への興味がどんどん膨らみました。

切替: 私は祖父と父が医師で、父は研究医です。そんな2人への憧れがあって、幼い頃から「医師になりたい」と思っていました。以前「どうして医療研究をしているの?」と父に聞いたことがあります。そうしたら、「自分の研究で多くの人を救えるからだよ」と言われて、「私も、研究医として人類の福祉に貢献したい」と決意が固まりました。

海老名: 僕の場合、家族に医師がいるわけではありません。ただ、同じ学校には、お父様が医師の人が多くて、身近に感じていました。加えて、医学自体にも強く心惹かれています。理系分野の中でも、医学は実学の面が強いのが特徴です。学問を活かして、広い世界にいる人たちに満足を与えられる可能性に魅力を感じます。

木村: 私はもともと研究職を志望していました。「どの分野に進みたいか?」と考えたとき、未知の分野が多い医学に強く惹かれました。まだ解明されていないことを自分の手ではっきりさせていければ、病気や怪我で苦しんでいる人たちも救えるからです。

土持: 私の父も医師なのですが、私自身、幼少期に医療センターに入院した経験があります。同じ病室の子どもたちがみんな癌で、なかには耳が聞こえない子や一生外に出られない子もいました。そんな子どもたちに対して、主治医の先生がとても親切でした。その先生の姿に憧れていたと同時に、「小児がんを治療したい」という思いもあって、医師を志望しました。山形大学は癌の研究で有名なので、志望校もすんなり決まりました。



切替 日奈子さん(東北大[AO入試]・渋谷教育学園渋谷)



海老名 洸太郎さん(東京医科歯科大・学習院)

入塾のきっかけ

土持:英語が苦手だったので、中学の後半から塾を探していました。あちこちで季節講習に通っていましたが、他のところは教え方も一方的で、私には合いませんでした。グノは授業中に添削があり、先生とのやり取りも活発で、先生が一人ひとり見てくださっているところがとても気に入って、高2の春に入塾しました。雙葉では、「グノに通っている子は成績がいい」と評判です。グノに通っていた先輩が東大に合格したり、模試で高得点を取っているのもグノ生だったりと、実績がたくさんあったからです。

木村:中学受験の頃にもらったチラシがきっかけでグノを知りました。中学受験終了後の私は、「勉強したくない」という状態に陥っていました。そんな時期に、掃除をしていた親がそのチラシを見つけて、「信頼できそうだから入ってみたら？」と私に勧めてきたのです。親は、勉強しない私を見て危機感を募らせていて、「勉強を好きになってもらいたい」と思っていたそうです。学校の中で成績がとても良かった同級生にも背中を押されました。中学受験の後で、私は勉強する気をなくしていたのに、その友達は勉強に熱心で、その理由を尋ねたら、「グノは楽しいから」と言っていたんです。それで、私も英語と数学でグノに通い始めました。

切替:私は新高3の冬期講習から、英語と数学で入塾しました。中学受験のために通った塾はときどきサボってしまいました。今度は、せめて学校や家から通いやすい場所にある塾にしようと考えて選びました。私のクラスの友達が何人もグノに通っていて、「グノの英語はとてもいいよ」といつも話していたのも入塾の動機になりました。

鈴木:高1になる前に受験を意識し始めて、グノのフレッシューズ講座という新高1生用の春期講習で英語と数学を受講しました。英語は不得意だったので、EGGS※を受講して基礎固めを目指しました。その授業が分かりやすく楽しかったので通常授業への入塾を決意しました。駒東では、グノの英語の評判は高く、通っている人がたくさんいました。数学と物理も一定数の人が通っていて、周りと一緒に勉強するのが楽しくて、それで順調に成績も上がりました。

※ English Grammar Green Session for newcomers 英語が苦手になってしまった一般生のための、英文法の基礎を補完する講座。

海老名:僕も高1で入塾しました。その前からグノが気にはなっていました。小6の終わり頃には、母がグノの説明会に参加していました。とても好印象だったらしいのですが、僕は中学受験をしていませんし、進学校でもないのです、その時には見送ることになりました。新高1になって受験をする気持ちが固まった頃に、あらためてグノを思い出しました。ところが、入室テストを受けてみたらa3※でした。中学時代は英検の勉強もしていて英語は得意だと思っていたので、かなり落ち込みましたが、授業がとても良かったので、心を切り替えて頑張ることにしました。入塾後、僕が周りに「グノいいよ」と言いまくったこともあって（笑）、学習院でも受験を考えている人たちの間にグノは広まっていきました。

※この学年の英語は、高1までa（最上位）から、a1、a2、a3の設定。高2からa4、a5が順次追加されました。

英単語の習得法

木村:語源で単語を覚えていくのが印象的でした。その単語だけに留まらず、関連する単語がどんどんつながっていき、意外な発見の連続でした。単語の語源を自分でも調べる癖がつきました。未知の単語に出合ったら、その語の成り立ちと、使われている文脈から意味を推測して、答え合わせのために辞書で確認するのが楽しみになりました。おかげで、初見の単語に臆することもなくなりました。

市販の単語帳は使いませんでした。単語帳で暗記しようとしても全然頭に入らなくて。学校で配られた単語帳を単語テストの前に眺めたくらいです。私は、「どうしてみんな、単語帳の暗記を頑張れるのだろう？」と周りの人たちを見ていました。

切替:単語を語源で覚えるのはとても面白かったです。授業の復習でも、語源を調べ



木村 恵理さん(山形大・白百合学園)

るのについて時間をかけていました。結果として、かなり語彙力を高められたと思います。

私は高3でグノに入ったので、それまでは単語帳を使っていました。でも、グノの授業を受けるようになってからは、暗記の必要性を感じなくなりました。単語帳は、授業のメモ帳代わりにして、授業で先生がおっしゃったことをそこに書き込んで、復習のときは索引で調べながら活用していました。

土持:私の単語の覚え方は、授業で扱った英文の読み返しでした。必要な語にはマーカーでマークしたり、ルーズリーフにまとめたりしていましたが、基本的には、英文を何度も音読するやり方だけで、十分な語彙力が身につきました。

鈴木:グノの先生は、音読は英語の総合力を上げるからと音読をものすごく勧めます。僕も音読を続けていたら、いつの間にか英語がスムーズに頭に入ってくるようになって、日本語に訳さなくても意味を捉えられるようになりました。単語帳を頑張って覚えても、この感覚は絶対に分からないだろうと思います。

海老名:僕は、他人の言うことを鵜呑みにするのは嫌いです。だから、高2の秋から冬にかけて、「グノは『単語帳は必要ない』と言っているけれど本当かな?」と疑って、1か月間単語帳を本気で覚えました。その結果、英文中の単語を、単語帳の訳と一対一で対応させられるようになったのですが、そのやり方には大きな問題があることに気づきました。英文を読むときには単語の意味は瞬間的に分かる必要があります。いちいち英語を日本語に変換するやり方では、もたついてしまうのです。グノのやり方で英単語を身につけている人たちのスピードにはまるで追いつけないのです。「単語帳の暗記は本当に意味がない」と確信しました。「意味がない」と分かったこと自体に意味がありました。専門用語は単語帳での習得に意味があるかもしれませんが、でも、普通の英文を読みこなす勉強には向かない勉強法だと思いました。文法事項についても、グノは丸暗記ではありません。文法用語や、A to Bとか、A with Bのような型を教えるのではなく、その文法事項を含む英文を、先生が黒板にいくつか書いていきます。その英文を使って、どうしてこの時制なのか、どうしてこの前置詞なのかを、ネイティブの感覚を大切に先生が説明していくと、「なるほど!」と納得がいきます。



鈴木 涼太さん(千葉大・駒場東邦)

英語を読む速度について

海老名:グノのやり方で英語を勉強していると、入試本番も、ものすごく速く読めます。速く読めれば、日本語での記述問題に時間をかけられたり、改めて解答を考え直す時間を確保できたりと有利です。

医科歯科(東京医科歯科大学)では、1500語くらいの英文を300～400字の日本語にまとめる問題が出題されますが、この問題には特に速読力が大きな武器になります。ある程度の速読力がある方が、全体の主旨や話の流れも上手くつかめます。

グノでは、「英語を読むことに頭の中の8割、9割を使ってしまうと、英文を読みながら他のことができなくなる。英語を読む作業を小さくすれば、内容を検討したり、批判的に考えたりするのに頭を使える。それには音読の練習が一番」と指導を受けました。医科歯科の要約には、まさにこの力が必要です。英文を読むことだけで精一杯だと、記述に必要な箇所を的確に見つけ出すことができません。

鈴木:グノで英語を勉強していると速読できるようになって、速読力は英文全体を俯瞰できる力につながるのです。受験の英語は必ずしも長文全体を精読する必要はありませんが、前からすばやく意味をとっていった全体の主旨とか流れを掴むことは大切です。そうすれば、傍線のある部分を答えるのに、そのパラグラフだけ検討すればいいのか、英文全体を踏まえる必要があるのかなど、戦略的な考え方ができるようになります。

切替:一回パッと読んで大体のストーリーを掴めれば、問題を解く際に「この辺をまとめればいい」と的確に掴めます。そこに的確に絞って精読できることは大切です。

私が受験した東北大の英語は、現代文よりも設問が単純です。凝った問題は少なく、設問の意図が分かれば解ける問題ばかりです。でもそれは、英語がスラスラ読め

ることが前提です。

木村:グノに入る前の私は、英文を読みながらいちいち日本語に変換していたため、時間がかかりすぎたり、途中で引っかかっているうちに結局全体の概要を見失っていました。設問の最後で、全体の内容に関する正誤一致問題などがあると、適当に答えていました。

グノで英文の読み方を学んだ後は、英文全体の内容を一回で素早く把握できるようになって、最後の正誤一致問題も確信を持って解ける、という流れができました。

土持:私の場合も、グノで勉強していて、受験英語を速く解けるようになったのはもちろんですが、父が購読している英字新聞も読めるようになって視野が広がりました。大学に入ってからさまざまな英文を読んでいくことになると思いますが、英語を読むことに抵抗もなくなっているし、文章全体を把握できるのは大切な力ですね。受験に留まらない読み方を習得できたことに感謝しています。

医系英語対策は必要か？

海老名:グノでさまざまなジャンルの英文に触れられたのは良かったです。大手予備校の医系クラスでは、医系英文ばかりのテキストを使っていると聞いたことがあります。一方、グノの英文は、科学系はもちろん、経済学や文学などの英文もあって、幅広い話題に触れられました。医学部入試とはいえ、医系の文章だけが出題されるわけではありません。医科歯科の入試問題でも、医系の話題であっても、それを社会的に考察する英文が出たりします。視点が偏らないのが良かったです。

土持:グノの英文読解を通して興味の幅が広がりました。先生が英文をきちんと選んでいることが分かりましたし、授業も表面的な解説だけで終わらずに背景の話に広がっていくのが魅力でした。英文の内容には身近な出来事も多く、視野が狭くなりがちな受験生活において、「ニュースもちゃんと見ないと!」という意識の向上にもつながりました。医学部対策ということでは、グノでも医学に関わる話題の英文はよく扱ってもらえていたので、それで充分だと思います。医学用語ばかりの英文を出題する大学の対策に気をとられるよりも、全般的な英語の対策をした方が力がつきます。

鈴木:書店には、医系の英文に関する受験参考書が並んでいます。それらを見ると、「特別な対策が必要なのかな?」と思ってしまいます。でも、最後までグノで扱った英文だけを勉強しました。医系の英文しか出ないところ、たとえば防衛医大（防衛医科大学校）もありましたが、それは特殊なケースです。たとえ医系の英文が出題されても、その英文をきちんと読めれば理解できます。医系に特化した対策が必要だとは思いません。

切替:私は東北大以外の国公立に興味がなく、私大も受ける気がありませんでした。そのため、東北大の対策しか考えませんでした。東北大の入試問題は全学部共通なので、「医学部だから特殊」というのはありません。普通に英語の勉強をすることが大切です。

木村:私の学校が近年医学部を推しているのも、その中で医系の英語の話も耳にしました。でも、医系の英語を特に意識したことはありませんでした。医系の英文も普通の英文の一種だと思って読めば問題ありません。

英語力の伸びや楽しさを感じたとき

木村:中1での入塾当初は学校のテストですぐにいい点がとれて、「私は英語できる」と思いました。その時期はとても楽しかったです。でも、中3になって段々できなくなっていき、英語が嫌いになりました。

姿勢を変えられたのは、当時担当だった先生に、「英語が楽しくないんですけど」と正直に相談したことです。先生は私の相談に真剣に向き合ってください、勉強のやり方の工夫や、先生が感じていらっしゃる英語への思いを熱く語ってくださいました。その後は、ずっと楽しく勉強を続けてきています。

土持:高校生になり、みんなが塾通いを始めて私はそこで出遅れました。でも、私の



土持 有理さん(山形大・雙葉)

学校は成績が開示されないため、自分がどのくらいの位置にいるのか分かりませんでした。あるとき模試を受けたら、周りの子たちとの差に衝撃を受けました。

でも、高2の春からグノに通い始めて、高3になってからは、模試での英語の成績は飛躍的に上がっていました。

海老名:僕には勘違いしていた時期がありました。学校で成績が良かったせいで、世間の中でも自分は優秀なのかと思っていました。しかも、グノのクラス分けテストの前だけ勉強して、上のクラスに入れると、自分は英語ができるとの勘違いがさらにひどくなりました。

その勘違いに気づいたのが高3の初めです。添削でズタズタにされて、それが納得いなくて先生のところに質問にも何度も行きました。先生の話聞いてみると、自分に足りないところがいくつもあるのに直面せざるをえませんでした。そこからはしばらく英語が伸びない時期が続きました。というか、その時期は本当の力を伸ばすための修練の時期だったのかもしれない。

「英語が得点源になる」と実感したのは高3の12月でした。英語を読むときに余裕が生まれて、筆者の考えや、問題の意図を意識できるようになったのです。センター試験の後は、過去問の添削を先生にしてもらいながら医科歯科の問題への対応力が高まって、最後には「英語はいける!」という自信につながりました。

鈴木:さっきも話した音読のことですが、最初の頃の僕は、「音読だけで本当に成績が上がるのか?」と疑問を持ちました。それでも、グノの先生を信じて音読を続けました。高3の夏休みには、1日2時間くらいです。そうしたら、いつの間にか英語がスムーズに頭に入ってきて、「やっぱり音読には大きな意味がある」と実感しました。夏休み明けのことでした。模試や学校の試験で、英語の偏差値が他の教科を上回るようになって、さらに音読を続け、本当の自信を持てたのは直前期でした。「英語が得点源になる」と確信していました。

切替:私の学校は英語に力を入れています。その中でも成績がいい方だったので、「私は英語ができる」と思っていました。模試でも英語の成績が一番良かったので安心していました。でも、グノに入塾したら、その自信を打ち砕かれました。要約でなかなか合格点をとれず、このとき「私は英語ができない」と落ち込みました。

読解の先生は、「大学での勉強は人文科学も含めてすべて科学で、科学は正確さが前提」とおっしゃって、要約の添削もとても厳しくて、通り一遍の答案では合格点はまずもらえません。そんな状況が続く中、夏が過ぎてやっと合格点が何回か続きました。その後満点もとれて、以来ずっと満点でした。このとき「英語ができるようになった」と思いました。直前期には“Excellent”とも書いていただけて本当に感動して、自信を持って受験に臨めました。

鈴木:英語の楽しさについて言えば、グノは授業自体が楽しいです。ものすごく長い授業なのに、その長さを感じさせない楽しさがあります。知的好奇心を刺激する先生の解説や、先生と生徒のコミュニケーションがあって、生徒を飽きさせない授業でした。

海老名:授業時間を延長しても全く授業料収入にはつながらないし、グノの先生は生徒を煽るわけでもないの、合格実績を伸ばすことが目的でもないと思います。僕たちの英語力を伸ばすこととか、僕たちに頭の動かし方を教えたいという先生方の気持ちの表れだと思います。楽しさだけでなく、情熱にも溢れていました。

そもそも僕は、面白いことでないと続けられません。グノの英文は、内容も面白いものばかりだったし、先生の解説も楽しかったし、解説をする先生の様子も見ていただけで楽しいし、その様子からもインパクトを受けていろんな知識が頭に残りました。本番で英文を読んでいるときにも授業でのことが蘇ってきて、一段上の視点に立って英語を読んでいた感覚でした。

切替:私も英文の内容自体も面白くて、先生の解説で自分の知識が充実していくのもとても楽しかったです。私は延長大歓迎でした。授業が長いと、「今日充実している!」と思いました(笑)。



海老名 洸太郎さん(東京医科歯科大・学習院)

グノーブルの数学

木村:中学受験のとき私は算数で失敗しました。だから、数学に対しても苦手イメージを引きずっていましたが、グノの先生が根気よく教えてくださったおかげで、私の中で数学の苦手イメージはかなり和らぎました。そもそも算数が苦手になったのは、分からないことを放置していたためです。自分から何とかしようという意識もありませんでした。でも、グノでは先生が数学の楽しさを教えてくださったし、放置しないように根気よく指導してくださいました。結局、最後まで数学は得点源にはなりませんが、数学の楽しさが分かる状態で受験を迎えられました。

切替:私も数学が苦手でした。数学は他の科目と比べられないくらい悪い成績で、そもそも嫌いでした。「どうしたらいいのだろう?」という危機的な状況でした。そんな私を救ってくれたのが、グノで受けたI A II Bの新鮮な授業でした。言葉を使って数学の概念を解説されるので、「そういうことなんだ」と何度も納得させられました。

担当の先生には、最初は厳しいイメージがありました。授業内容も難しく、分からないことがたくさん出てきます。「分からないし、どうしよう?」と心が折れそうでしたが、思い切って先生と一対一でお話したときから先生のことが大好きになりました。先生が生徒や授業のことをいっぱい考えてくださっているとよく分かったからです。先生も、「努力の方向は間違っていない」などいつも私を励ましてくださいましたから、やる気を絶やさずに数学を続けられました。受験を迎える頃には、「数学が好き」という感情も芽生えました。

鈴木:高1から数学を受講していたので、学校のテストでも数学で点がとれていて基礎的な力は高2までについていたと思っていました。

でも、高3のI A II Bの授業は衝撃でした。前期の間は、それまでやってきたことをすべて言葉で捉え直して、意識的に使える武器に変えていくような作業でしたが、これが大変でした。問題を解くときに単に解き方が分かっているだけだと、先生からは「数で遊んでいるね」と言われてしまいます。「この先生、何を言っているんだ?」とちょっと傷ついたりもしました(笑)。

でも、周りの人たちも「すごい数学だ」と絶賛していたこともあり、「ついていこう」と心に決めていました。言葉が多用される独特の板書をしっかりノートに取りながら授業を受けているうちに、受験で使う数学の全体像を把握して、「行動の原理」、「行動の動機」を自覚しながら、個別の問題に対する方針ではなく、状況に合わせて大局的に方針を選んでいくスタイルが自分でも分かってくる、初見の問題への対応ができるようになりました。

宿題を自分でどう解いたかを報告する予習チェックシートもありました。自分がどういう解き方でこの問題を解いて、どういう解き方をして失敗したか、もしくは成功したかを自分の中で整理できる優れものです。自己を見つめ直す機会になりました。

グノーブルの物理

鈴木:高3からは物理も受講しました。友人に勧められたのがきっかけです。前期は、物理の歴史をたどりながら公式を教えるという、全く見たことのない斬新な授業でした。授業内容は大学受験レベルを超えていて大学の内容も扱います。最初はとまどいも覚えましたが、そういう授業を受けているうちに、物理のセンスが身につきました。

後期のテスト演習では、前期で培ったセンスを存分に活かしながら、「この問題には、あの科学者が考えた公式を使えるな」と難問にチャレンジできました。

僕は物理が好きだったので、グノの授業がとても合っていました。好奇心を刺激してくる興味深い内容ばかりで、それが大学の勉強にもつながっていると思うとワクワクしました。



木村 恵理さん(山形大・白百合学園)

グノーブルの古文

木村: 高1で古文を受講しました。先生が体を張って単語の解説をしてくださって、それが強烈な印象だったので記憶に残ってしまう授業でした(笑)。古文も、単語帳を丸暗記するのではないという点で、グノの英語と似ています。古語の語源イメージを先生が再現してくださるので、「この古語を漢字変換すると、確かにこういう意味だ!」と納得しやすいですね。古文特有の時代背景も面白く解説していただきました。おかげで、ものすごく苦手だった古文が楽しくなりました。

グノーブルの先生

木村: 先生方は生徒一人ひとりを把握してくださいます。「最近調子良くないね」と声をかけてくださることもあって、ときには傷つきながらも(笑)、「見透かされてる。やっぱりやらなきゃ!」と奮起していました。「先生からいいコメントをもらいたい」という思いも、頑張るための原動力になっていました。

グノでは、たった一年だけのご縁だった先生でも、その後「センターの勉強は進んでいる?」などと私によく声をかけてくださいました。覚えてくださっていることが、とても嬉しかったです。

切替: 先生たちは最初の授業ですぐに名前を覚えてくださいます。授業中は厳しそうな先生でも、授業後に質問に行くと親切に答えてくださいます。しかも、生徒それぞれの特徴を把握されていて、私が全て言わなくても、先生が察してくださるのです。だから、質問に行くのがやる気につながっていました。「質問できることはないかな? 質問に行ったら個人的に先生と話したい!」と思うくらい、先生を信頼していました。

土持: 先生たちは真剣に授業をしてくれるので、添削が終わった後に、みんなの出来が悪いときなどは、基本元気な先生が、本当に悲しそうな表情をされることがあるんです。「みんなの点数が悪いからじゃなくて、どんな助言をすれば良いのかが思い浮かばなくて…」と先生が話し始めると、私たちも泣きそうなくらいつらい思いをしていました。「先生を悲しませたくない」と思ってみんなで頑張ったりもしていました。

切替: 「今週の〇〇先生」みたいな話題がグノ生の間で盛んでした。先生が元気過ぎて授業が長かったとか、今週は先生も泣きそうだったから本当にきついか、みんなで情報を回していました(笑)。

先生が、「みんなは読書体験が少なくて、それで、抽象的な事柄を自分に引き寄せて考えられなかったり、論理展開についていけなかったり、ということもあると思う」とおっしゃっていた時期がありました。それを聞いた私は受験学年だったにも関わらず、「本を読もう!」と決心しました。この一年は、受験生なのに中高の時期の中で一番本を読みました。時間を決めて一日にちょっとずつ、たとえば、歯を磨く時間にも読み続けていました。読書経験のおかげで、読解力が上がったり、知識が増えて英文も読みやすくなったりしたのかもしれない。読書が素養につながったような気がしています。

海老名: 僕の場合も、グノに通っている友達と「昨日の〇〇先生はどうだった?」という話をよくしていました。先生のところに、ろくでもない会話を持っていっても参加してくださるし、真面目な相談にも乗ってくださいました。「先生」というよりも「頼れる大人」という感じでした。

鈴木: グノーブルは先生との心の距離が近いと思います。先生方はとても話しやすく、質問したりコミュニケーションをとったりしやすかったです。僕も周りの友達も、先生と話すのを楽しみにしていました。授業外もみんなで盛り上がっていました。先生方は、僕たちからみて、頭が良くて知識が豊富で、話し相手としても面白かったし、相談相手としても頼りがいがありました。

海老名: 「先生がいつ寝ているのか?」に関する真面目な議論もありました。質問や添



切替 日奈子さん(東北大[AO入試]・渋谷教育学園渋谷)

削依頼のメールを何時にしても、結構すぐに返信があります。「メールを送る時間を段々遅くしていったら、先生がどこで寝たかが分かるんじゃないか?」とみんなで話し合ったりもしていました(笑)。

先生のことを、生徒はみんな考えていましたし、生徒一人ひとりのことを先生方も考えてくださっていました。いろんな意味で、先生と生徒の距離の近い環境が実現されていました。

鈴木:先生方は生徒のことを真剣に考えてくださるので、添削で点数が低いと「先生に申し訳ない」という気持ちになります。黒板に書かれる点数表を見ながら自分の位置を意識して、「来週は頑張らなくちゃ!」とやる気につながっていました。

グノーブルの魅力

海老名:グノの理念は「知の力を活かせる人に」で、その言葉があちこちに書かれていますが、この言葉が単なるキャッチコピーになっていなくて、教材にもそれは表れていますし、博覧強記な先生方もそれを体現されています。僕たち受験生にとっては、知の力を本番で活かせるかどうか勝負どころになりますが、活かせるところまで、先生方がしっかり導いてくれたのがグノだと思います。

鈴木:グノの授業は、教科によらず好奇心に火をつけてくれます。英語も物理も数学も、自分が興味を持ったことに「とことん取り組みたい!」と思わせるような刺激に溢れていました。医学の道に進む上でも、グノで培った好奇心や集中力は大きかったと思います。

切替:信頼できる先生や好きになれる先生がたくさんいました。先生が好きだとその科目を頑張れます。そういう先生方と出会えたのが一番大きかったです。

木村:先生との距離の近さから、その先生の知識を全て吸収したいという欲が生まれてきます。興味のなかった分野でも、先生との出会いを通して、新たな扉として受け入れられるようになりました。学ぶことが楽しくなりました。

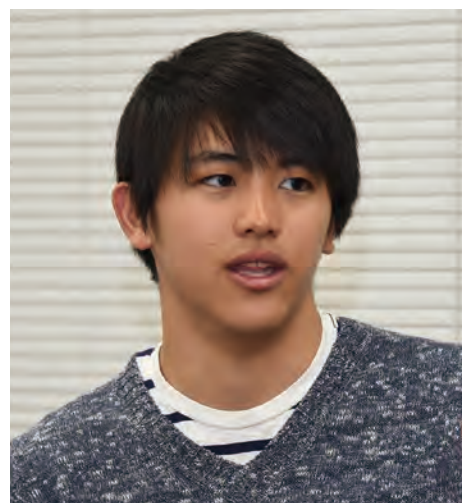
土持:先生が配付してくださる教材や資料を読むと、全然興味がなかった分野に興味が湧いてきたり、世界情勢に目を向けてみようと思えたりします。私はもともと国際交流に興味がありませんでした。でも、グノで学んだ今は、「大学入学後、国際交流に挑戦してみたい」と考えています。グノは、将来の道を決めるきっかけをくれました。

木村:私の場合は哲学についての英文が印象に残っています。もともと私は、哲学には全く興味がなくて、「堅苦しくて面倒くさい」というイメージしかありませんでした。でも、いくつか哲学が出てくるグノの英文を読んでいっているうちに、「楽しいかもしれない」と思い始めて、図書館で本を借りるまでになりました。その後、哲学オタクみたいになってしまって、哲学関係の集まりに参加させていただいたこともありました。グノで一生の趣味になるかもしれない哲学と出会えました。人生において有意義な時間だったと思います。

切替:高3になると勉強以外になかなか時間を割けません。世間のニュースも頭に入らないし、深く知らないという状況に陥ります。でも、グノの英語では、最新のニュースを取り上げることもあって、外部からの情報を仕入れるきっかけになっていました。「情報源はグノの英文だけ」と、友達との会話にも使っていましたし、そこから興味が広がって、自分でその情報について調べることもありました。

医学部の面接について

土持:山形大の面接では、志望動機などが聞かれると思っていましたが、それよりも部活のことを重点的に聞かれました。私は写真部で、暗室での焼き付けまでやっていたので、面接官の共感を得やすかったようです。東京と山形の違いについてなども聞かれましたが、山形で学べることを楽しみにしている気持ちを忘れないように答えました。また、山形大学医学部には、国立大学では初めて設立された「がんセンター」



鈴木 涼太さん(千葉大・駒場東邦)

があります。その施設に対しての関心についても話しました。

地方の医学部を受験する場合、余裕があれば、志望大学のある県に受験前に一回行っておくのもいいかもしれません。その土地の印象を聞かれたりしたときに答えやすくなると思います。

木村:私も、医師を目指す理由や大学の志望理由、将来どの方面に進みたいかという質問に対しては準備をしていましたが、そのような質問はなく、やはり、部活のことを聞かれました。「考古学研究部」に入っていたので、「好きな時代は?」とか「好きな古墳の形は?」といった質問です。

他には、調査書や受賞歴のことをいろいろ聞かれましたが、医学部に関わる質問は、「将来何科に行きたいですか?」というものだけでした。

切替:私はAO入試でプレゼンの課題がありました。AO入試なので、勉強以外のものを受験生に求めているのだと思います。プレゼンの準備時間は30分です。テーマが提示されて、それについてポスターを6枚書き、5分間のプレゼンをする準備をします。プレゼン終了後には10分間の質疑応答も行われます。

私のテーマは、「あなたが発見した物質Xは苦みをなくす作用があります。それを使って開発した商品についてのプレゼンをしてください」というものでした。作用する仕組みの説明、商品の概要、商品名、今後の課題などを盛り込むように、という指示もありました。

作用の仕組みについては直前に講義があって、2つの方向が示されていました。質疑応答の時間には、私が選ばなかった方向について、「もう1つの方向だったらどうですか?」という質問がされました。他には、「実験はヒトで行いますか?」「動物実験を行うなら、何を測定しますか?」などの質問を覚えています。その場での思考力が問われた印象でした。

鈴木:千葉大では1対1の面接を3回繰り返します。質問内容は、志望動機や高校のことではなく、医療系の小論文で聞かれるようなことです。お題が書かれたカードを渡されて、1分間考えた後、自分の意見を述べます。難しいお題が多くて、僕は、3つのうち1つしかまともには答えられませんでした。面接官がフォローを入れてくれたこともありました。

僕が受けた面接の3つのお題は、「ある薬が流通しているが、その薬は正規の方法で作られたものではない。しかし、その薬を生産中止してしまうと困る患者さんもいる」、「大学院に在籍する生徒が考えた研究を、ある教授がその大学院生の許可を得ずに雑誌に投稿した」、「ある病院ではベッド数が足りていない。そんな状況下で、治療の済んだ患者さんが『もう少し入院させてほしい』と言っている。その患者さんを退院させないと、新しい患者さんを受け入れられない」でした。それぞれのお題について、問題点と対策を述べる必要があります。

面接官も「正解はない」と言っていました。だから、自分の意見を述べればいいのですが、僕はなかなか答えられなかったのです。私立の普通の面接とは異なるので、事前に練習するなどしておかないとつきいかかもしれません。

海老名:医科歯科の面接で定番なのは志望理由です。「どうして東大を受験しなかったの?」という質問の対策として、医科歯科と東大の入試問題の違いを分析していました。「こういう入試問題を出題する医科歯科は、こういう生徒を求めているのだらうと思いました」というストーリー作りをしたわけです。入試問題には、大学の求める生徒像が反映されます。センターと二次の比率を見てもそれが分かります。過去問を分析すること自体が面接対策にもなると思います。

医学部を目指す後輩へのメッセージ

土持:音読には毎日取り組みましょう。お風呂の中などで音読するのを勧めます。真面目に音読を続けている人は必ず伸びています。音読の効果を最初は信じられなくても、継続することが大切です。音読をやらずに「英語ができない」と言うと、「音



土持 有理さん(山形大・雙葉)

読をやってないから!」と先生方に切り返されるだけです。

木村:できるだけ毎週授業に出席してください。学校の試験前などで1回でも授業を休むと、かなり大きな穴が開きます。振替を上手く利用して頑張るのがお勧めです。

それから、最後まで諦めないでください。私はずっと判定が芳しくなくて、周りからは他の学部を何回も勧められました。周りの意見に従って後悔するよりも、自分で決めたことを貫いて納得した方が絶対にいいです。

切替:目標を常に意識するのが大事です。私は別の国立医学部に通っている姉の影響もあり、高2で研究所の見学に行ったり、自分で研究して論文を書いたり、そういう課外活動にも真剣に取り組みました。

私は「自分は頭がいい」と思ったことは一度もありません。でも、「大学受験なら努力で何とかしたい!」という目標を胸に秘めていたため、模試の成績が悪くてもそれに振り回されず、「絶対に受かる!」という信念をもって勉強し続けられました。

鈴木:医学部志望だからといって難問にばかり取り組んではいけません。基礎を固めた上で手を広げるのがいいと思います。医学部の問題は、東大のような難問ではなく、比較的解きやすい問題ばかりです。そうした問題で着実に高得点をとらないと受からないところに医学部の難しさがあります。

また、受験勉強ではメリハリが大切です。高2までの僕は、勉強よりも学校行事に力を入れていました。高3になっても、行事があると勉強しないことが多かったです。でも、計画を立てて、勉強する時間をきちんと確保していたので問題ありませんでした。勉強するときはしっかりやり、他にやりたいことがあったらそちらにもしっかり取り組むというスタイルを僕はお勧めします。

海老名:医学部は、偏差値によらない難しさがあります。国立大に関してはセンター試験でも高得点が必須ですし、私大なら癖のある問題の対策も必要です。だからこそ、本当に行きたい大学に絞って勉強するのが、医学部受験で合格に近づくための近道です。いろいろな大学を受験しようとして、「二兎を追う者は一兎をも得ず」になってはいけません。

最後にグノの利用法をお話しします。まず「英語がちょっと得意かな」と思っている人にはグノが絶対お勧めです。ものすごく英語ができる人たちにもまれるのが貴重な経験になるからです。しかも、グノには、ものすごく数学や理科ができる人たちもいます。彼らと自分を比較して「英語だけは負けない!」と奮起するのもいいですね。身近なところにライバルを見つけて、「あいつよりもいい点をとる!」と意識しながら勉強に励んでください。